

経皮鎮痛消炎剤
ナポール®パップ140mg
処方変更のご案内

謹啓

時下ますますご隆盛のこととお慶び申し上げます。

平素は弊社商品に格別のご高配を頂き、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび経皮鎮痛消炎剤「ナポール®パップ 140 mg」が処方変更により『無臭性』に改良致しましたのでご案内申し上げます。

変更之际しまして、従来品と変更品が流通しご迷惑をおかけしますが、何卒ご了承の程宜しくお願い申し上げます。

謹白

—記—

【変更内容】

組成、性状における添加物記載欄が変更になります。

《 従 来 》

《 変 更 後 》

【組成・性状】

添加物	アジピン酸ジイソプロピル、エデト酸ナトリウム水和物、 <i>l</i> -メントール、カオリン、カルメロースナトリウム、乾燥亜硫酸ナトリウム、乾燥硫酸アルミニウムカリウム、グリセリン、ジブチルヒドロキシトルエン、D-ソルビトール、pH調節剤、ポリアクリル酸ナトリウム、その他4成分
剤形・性状	白色～淡褐色の膏体を支持体に展延し、膏体表面をライナーで被覆したパップ剤である。 <u>わずかに特異なにおいがある。</u>



【組成・性状】

添加物	アジピン酸ジイソプロピル、エデト酸ナトリウム水和物、カオリン、カルメロースナトリウム、乾燥亜硫酸ナトリウム、乾燥硫酸アルミニウムカリウム、グリセリン、ジブチルヒドロキシトルエン、D-ソルビトール、 <u>パラオキシ安息香酸プロピル、パラオキシ安息香酸メチル、</u> pH調節剤、ポリアクリル酸ナトリウム、その他6成分
剤形・性状	白色～淡褐色の膏体を支持体に展延し、膏体表面をライナーで被覆したパップ剤である。

*なお、この変更に伴う効能・効果、用法・用量の変更はございません。

この度の変更に伴い、添付文書、薬袋、中箱、外箱には『無臭性』の表記を行います。

《 添 付 文 書 》

<p>※2013年 6月改訂(第10版) ※2013年 2月改訂 貯 法: 遮光した気密容器、室温保存 使用期限: 外箱に記載の期限内に使用すること。</p>	<table border="1"> <tr> <td>日本標準商品分類番号</td> <td>872649</td> </tr> <tr> <td>ナボルパップ70mg</td> <td>ナボルパップ140mg</td> </tr> <tr> <td>承認番号</td> <td>22000AMX00250000 22000AMX00249000</td> </tr> <tr> <td>薬価収載</td> <td>2008年6月</td> </tr> <tr> <td>販売開始</td> <td>2006年8月</td> </tr> </table>	日本標準商品分類番号	872649	ナボルパップ70mg	ナボルパップ140mg	承認番号	22000AMX00250000 22000AMX00249000	薬価収載	2008年6月	販売開始	2006年8月
日本標準商品分類番号	872649										
ナボルパップ70mg	ナボルパップ140mg										
承認番号	22000AMX00250000 22000AMX00249000										
薬価収載	2008年6月										
販売開始	2006年8月										
<p>※経皮鎮痛消炎剤(無臭性)</p> <p>ナボル®パップ70mg NABOAL®PAP 70mg ナボル®パップ140mg NABOAL®PAP 140mg (ジクロフェナクナトリウムパップ剤)</p>											
<p>【禁忌】(次の患者には使用しないこと) (1) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 (2) アスピリン喘息(非ステロイド性消炎鎮痛剤等により誘発される喘息発作)又はその既往歴のある患者〔重症喘息発作を誘発するおそれがある。〕</p>	<p>4. 副作用 本剤は、副作用発現頻度が明確となる臨床試験を実施していない。(承認時) 製造販売後調査の総症例1,057例中、副作用が報告されたのは25例(2.37%) 26件で、その主な症状は、皮膚炎21件(2.0%)、痒痒感3件(0.3%)等であった。(ジクロフェナクナトリウム</p>										

《 薬 袋 》

【変更品製造番号】

下記製造番号から変更いたします。	包装	製造番号	使用期限
ナボル®パップ 140mg	70 枚	30107	2015 年 6 月
	280 枚	30208	2015 年 7 月
	560 枚	30205	2015 年 4 月

※包装、統一商品コードの変更はございません。

以上